

平成28年12月4日

## 平成28年の申年にちなみ猿が主役にもなる庚申塔を紹介します（1回）

政治や気候もサプライズ続きの2016年も1か月弱となって参りました。昨年は寺田縄地区内の寺社や路傍にまつられている石造物（以下石仏と云う）を4回にわたって紹介しました。今年は申年に当たり、年初に十二支のサルが登場する庚申信仰とその証に建立された庚申塔を紹介して欲しいと云われていましたが、12月4日が今年最後の庚申かのえさるの日に当たりますので、第1回を12月4日として「庚申信仰と猿&金田地区の庚申塔」を皮切りに、第2回は12月14日頃に「平塚市内の庚申塔」、第3回は12月24日に「神奈川県内の庚申塔」の紹介をしますのでお付き合い下さい。

### （1）庚申塔の主尊の青面金剛と眷属の猿・鶏・邪鬼など

人間の胎内には三尸さんしの虫が住みつき、60日毎に回ってくる庚申の夜に、体より抜け出して天帝（北斗七星とも云われている）にその人の悪事を告げため、命が短くなるとの中国の道教の考えが底流にある。平安時代には枕草子にも「庚申待」の言葉があり、鎌倉時代に書かれた吾妻鏡の中にも「庚申」の言葉が出てきます。さらに室町時代の後期には庚申信仰の主尊である「青面金剛」しょうめんこんこうの文字が出てきました。

青面金剛は伝尸病（結核）の予防治療を祈願する仏とされ、道教の三尸の虫と結合したと云われています。

猿との関係は「庚申」の申（サル）と関係する説もありますが、中世の「山王曼荼羅」さんのおまんたらの中に、猿が描かれており、日吉（ひよし・ひえとも読む）神社の神使が猿（メヌ）であることから、早い時期より猿は山王信仰との関わりがあったと云われています。青面金剛の両脇に彫られた二猿、三猿「見ざる、聞かざる、言わざる」は台石に多様な姿態で彫られているのがよく見かけられます。

鶏は庚申講が十二支の申の日の夕方より始まり、翌日の酉の日まで夜を徹して飲食をし、一番鶏が啼いたら解散する、重要な役割を担った鶏と云えます。

青面金剛に踏みつけられた邪鬼たたは祟りを引き起こす鬼神です。奈良の東大寺の戒壇院の四天王が踏みつけたものがよく知られています。

庚申塔の主尊には青面金剛の外に、帝釈天、地藏、三猿、不動尊などの像容などを彫ったものや、文字で青面金剛、庚申供養、数字で五庚申、七庚申、百庚申など多種です。

以上の説明を参考にして頂き、まずは地元金田地区の庚申塔を紹介します。

## 2) 金田地区の庚申塔

金田には庚申塔が14基あります。地区別まとめると次の通りです。

### ① 寺田縄（4基）

吉祥院の境内に写真の寛文3年（1663）の板碑型で三猿と日月に光明真言を刻んでいます。市内でも貴重な石仏です。山門前の天保15年（1844）の文字塔は道標を兼ねたものです。残りの一つは六地藏の右の角柱型には、庚申塔によく彫られている「二世安楽」（この世と来世）の文字が彫られています。



「芳乃和」の駐車場脇に安永8年（1779）の角柱型の文字塔には吉川・高橋のいっとう一黨で建立、3面に行き先が彫られている。

### ② 飯島（3基）

3基とも明珠院にあります。山門を入った右にある写真のものは金田では唯一青面金剛が彫られています。制作は享保17年（1732）、向き合った猿で中央は「聞かざる」の指定席のようです、もちろん例外もあります。本堂の裏側の三面に各一猿の角柱型のものは寛文12年（1672）、もう一つは上部に日月、下部に三猿を彫ったものは享保6年（1721）のもので正面に山王大権現と彫られています。



### ③ 入野（6基）

福田寺の本堂前右側の木々の中に元禄10年（1697）の三猿を彫った文字塔があります。正面には二世安楽、三猿の下に5名の造立者が彫られています。水神橋を渡り上流に少し行った土手下にもよく類似の三猿の庚申塔があります。当寺の山門前にも道標を兼ねた文字塔があります。



八坂神社の鐘楼脇に道祖神、堅牢地神塔などと一緒に3基の庚申塔がありますが、残念ながら何れも倒れていて、彫られている銘文など今は読めませんが、今までの調査によると寛文5年（1665）建立の文字塔と文字・三猿の2基、残りの1基は金田地区では一番新しく、明治5年に建立した文字塔で施主は一人のようです。

④ 長持（1基）

熊野神社の鳥居をくぐって左側に北を向いた12文字の梵字を彫った珍しい庚申塔があります。三面に猿が彫られ、正面の聞かざるの上部に右のよ  
うな二鶏が彫ってあります。

裏面（南面）の梵字3文字は「オン ボク ケン」が彫られ、「塔の建った土地は清められている」ことを表していると思います。



2回目は平塚市内の庚申塔を紹介いたします。

- 参考文献：・平塚市博物館 2014年『平塚の石仏 3058の祈りと願い』  
・平塚市博物館 2013年『平塚の石仏 改訂版8金田地区編』